

神奈川県内企業が第1空挺団降下訓練始めを研修 「県内援護協力企業の更なる自衛隊認識が深化」



神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 夏井 隆）は、1月12日（日）、県内企業による自衛隊退職者の援護協力組織である自衛隊神奈川援護懇話会が実施した陸上自衛隊第1空挺団降下訓練始め研修を支援した。

参加会員29名はバス2台に分乗して横浜駅前を出発し、習志野演習場に到着した。当日は曇りも垂れ込み、時折霧雨が降る生憎の天候であったが、各種航空機から次々に降下する空挺隊員の勇姿や、次々に展開する様々な装備に歓声を上げ、改めて自衛隊員の精強性を間近に感じるところにより、退職自衛隊員の有用性をさらに深めることになった。

同会には県内企業約200社が加盟して、退職自衛隊員の雇用にも多大な協力を得ており、神奈川地本は「今後も自衛隊神奈川援護懇話会の活動を積極的に支援し更なる理解を得ることにより、退職自衛隊員の雇用促進に結びつけていきたい」としている。

自衛官採用試験合格者説明会を募集事務所で実施 「入隊までの心の準備ができた」



栗原会長の挨拶に耳を傾ける参加者



所長の全般説明に聞き入る参加者

神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、1月25日（土）神奈川地方協力本部で令和元年度自衛官採用試験合格者説明会及び懇話会を実施した。当日は週末の開催ではあったが、保護者を含む約40名が訪れた。この説明会は当事務所が毎年この時期に、他の公務員や企業等を併願して入隊を迷っている対象者を合格者に声掛けし、現時点での不安解消の一助となればと実施しているものである。また今年も、募集相談委員会の栗原会長に協力していただくとともに、上大岡募集案内所に臨時勤務中の航空自衛隊入間基地中部航空警戒管制団基地業務群給養小隊所属の坂田里英空士長にも先輩隊員として参加してもらった。初めに所長から、自衛隊の任務から入隊までの予定を説明すると、参加者は真剣な眼差しで聞き入っていた。参加者からは「参加して不安が消えました」「入隊までの心の準備ができました」など安堵の声が聞かれた。

横浜中央募集案内所は、「このようなつなぎ広報を継続的に実施し、合格者の入隊確度の向上を図っていく、年度の募集成果につないでいきたい」としている。